地方の元気再生事業に選定

Qバスを中心に街づくり

坂井輪コミュニティQバス（キューバス）
第10号　2009年７月
発　行
NPO法人 コミュニティバスを通す会
新潟市西区松海が丘4丁目3番8号
TEL 025-269-7766
FAX 025-269-7761
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://q-bus.jp

地域の活性化の為に

昨年から始まった、地域活性化の為に総務省内閣官房地域活性化統合本部から発信されたこの事業は、昨年も日本中で色々な分野で活用され、新潟からも昨年「旧大和地域の現有する（外国人力）を活かした街づくり」と小千谷市・川口町の「里山再生　よりみち大学」の二つが今年も継続事業として採択された。

今回は全国１９１件採択（新潟県10）

今年は昨年より多く６９６件の応募があり、昨年1割の採択が、今年は３割弱の１９１件が採択された。それは国の方で景気回復の為に多く選定されたと思われる。

新潟県からも10ヶ所が選定①阿賀町の森林再生「竜宮の森づくり」②阿賀町の「阿賀町雪椿プロジェクト」③新発田市「月岡温泉魅力度アップ・アーティスト村づくりプロジェクト」④五泉市「絶滅危惧種トゲソの保全と湧水の里１００年物語」⑤胎内市の「水のミュージアム創造」⑥糸魚川市「糸魚川ジオパークプロジェクト」⑦村上市のみちづくりパートナーシップ「日本海パークライン」⑧長岡市他「中越まるごと防災グリーンツーリズムプロジェクト」⑨佐渡市の「能と農の島・佐渡のムラをあなたの実家にプロジェクト」⑩そして新潟市からは私共の「Qバスが地域住民の生活をつなぐプロジェクト」が選ばれました。

Qバスが選ばれた理由

近年CO2削減に効果的なマイカー利用の減少を推進する公共バスの整備、その一環としてQバスは昨年始めて坂井輪の南北を結ぶ路線として新潟市の支援を受け住民バスとして誕生。

当初からもっと本数を増加して欲しい、土曜・日曜も運行して欲しいとの強い要望があり、新潟市と私共NPO法人とでバスについてのアンケート調査を行う方向で動いていた矢先であった事や、沿線の商店・病院・公的施設等、沿線のバスに対する一体感をもたせる為の催し等を開催したいと思っていた事が認められた。

吉田六左エ門先生ありがとう

今回の応募にあたり、衆議院議員の吉田六左エ門先生が、かつて総務大臣政務官にあられた事で色々なご指導を仰がせて頂いた事も採択の大きな力になったと感謝申し上げます。

全国696件応募 ➡ 191件選定（新潟県10）

ブロック	都道府県	市町村	提案団体名	調査名	経費概算（百万円）
東北圏	新潟県	三条市、東蒲原郡阿賀町	新潟県森林再生「竜宮の森づくり」協議会	新潟県森林再生「竜宮の森づくり」	
東北圏	新潟県	東蒲原郡阿賀町	阿賀町雪椿活用推進協議会	積雪地域・風土の恵み「阿賀町雪椿プロジェクト」	1
東北圏	新潟県	新発田市	新発田市	目指せ！月岡温泉魅力度アップ！アーティスト村づくりプロジェクト	6
東北圏	新潟県	糸魚川市	糸魚川ジオパーク協議会	日本初、世界ジオパーク －日本・世界へ発信！糸魚川ジオパーク プロジェクト－	17
東北圏	新潟県	五泉市	五泉市湧水の里100年物語推進協議会	絶滅危惧種「トゲソ」の保全と湧水の里100年物語	13
東北圏	新潟県	新潟市西区坂井輪地区	NPO法人 コミュニティバスを通す会	「Qバスが地域住民の生活をつなぐ」プロジェクト	13
東北圏	新潟県	胎内市	胎内市	水に活かされる元気な地域づくり・人づくり－胎内川流域圏 水のミュージアム創造－	18
東北圏	新潟県	村上市	みちづくりパートナーシップ「日本海パークライン」	「国道345号・日本海パークライン」の観光連携と沿線地域活性化推進事業	17
東北圏	新潟県	長岡市、小千谷市、川口町	社団法人中越防災安全推進機構	中越まるごと防災グリーンツーリズムプロジェクト	16
東北圏	新潟県	佐渡市	（社）佐渡観光協会	PURE JAPAN 能と農の島・佐渡の"ムラ"をあなたの実家にプロジェクト	6

地方の元気再生事業

「Qバスが地域住民の生活をつなぐ」プロジェクト

主な取り組み（案）

◆利用者拡大の為に

①各方面に対するアンケート・ヒアリング調査と検討や次年度以降の計画策定のための協議会開催
②沿線・流通センター内各企業に対するPRとノーマイカーデー実施によるCO2削減などの環境負荷低減策の実施
③バス車内における小学生以下の小人や沿線の地域住民の方製作の絵画・作品の展示
④沿線のバス停以外でも乗降できるフリー乗降制の検討や、携帯で運行情報がわかるシステム等ソフト面における充実の実施
⑤Qバスと大規模商業施設の共通利用者に対するQバス回数券提供の実施

◆土日運行に向けた施策

①12月ー2月の土日祝休日に30日程の期間、外・内回り4便ずつの社会実験運行の実施
②沿線大規模商業施設と次のコラボレーションを行う
・休日におけるイベントの開催
・バス利用者に対し、Qバス回数券提供の実施

◆バスターミナルの設置について検討する

①以下の件について検討会を実施するほか、先進地への視察を行う
・現行のQバスを終点型から循環型にするための検討
・バスターミナル設置位置と機能と規模の検討
・バスターミナル内における施設とその内容の検討
②地域の農業経営者等と次のコラボレーションを行い、沿線市民に地産地消を呼びかける
・「収穫祭」と題して農業と地産地消に関するイベントや試食を実施
・将来的にターミナルでの提供を視野に、市民による地域農産品を活用したアイデア料理大会の実施

便利なバスにする為　ご協力下さい！

- アンケート調査、ヒアリング調査にご協力下さい。
- 12月から２月にかけて土曜・日曜の試験運行を致します。乗って下さい。
- 「走る美術館」バスの中に皆様の絵画等作品展示します。出展下さい。
- 収穫祭やアイデア料理大会等イベントに参加して下さい
- 町内子供会、クラブ、部活単位等でバス体験ツアーを希望の方お申込み下さい。（無料体験回数券を差し上げます。電話269-7766事務局迄ご連絡下さい）

平成21年度地方の元気再生事業採択　**「『Qバス』が地域住民の生活をつなぐ」プロジェクト**　スケジュール（案）

		H21年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22年 1月	2月	3月	4月～
利用者の拡大に向けて	1－①アンケート調査	アンケート準備		アンケート実施 ヒアリング実施	集計・分析・報告書作成					21年度事業報告、成果物、提出（3月末）	事業完了検査、委託料の支払
	1－②CO2削減策の検討と実施		ノーマイカーデイ実施に向けて			第１回協議会の開催			第２回協議会の開催		
			エコパートナー企業制度の検討、提案								
	1－③走る美術館	バス会社との折衝			走る美術館			走る美術館			
				沿線学校、病院等への要請							
	1－④フリー乗車制検討ソフト面の充実	関係機関との折衝			フリー乗車制検討						
					携帯電話向けホームページ　制作　運用開始						
土日運行に向けて	1－⑤、2－②大規模商業施設Qバス回数券提供	バス会社、大規模商業施設との折衝					適用開始				22年度継続申請（3月末～4月初）
	2－①土日運行の社会実験	バス会社の折衝、大規模商業施設とイベント開催の企画作成					土日運行の社会実験（12-2月）、イベント開催				
バスターミナル設置に向けて	3－①a先進地への視察					先進地視察					
	3－①b バスターミナル設置の検討会				設置準備	第１回検討会の開催	第２回検討会の開催		第３回検討会の開催 報告書作成		
	3－②地産地消に向けて	大規模商業施設との交渉									
		農業関係者との交渉				収穫祭　試食会　アイデア料理大会					
	プロジェクト全体広報活動			広報車・街頭宣伝、バス体験ツアーの企画・実施							
							ＰＲ誌の発行				